

「生きるということ」を 深く考える一冊

ルソー著『エミール上・中・下』 岩波文庫

人 間いかに生きよ
うと本来自由で

ある。「生きる」ということと「を深く考えよう」と全く考えていまいと本来その人の自由に任されている。しかし、と僕はいいたい。しかし次のこともまた動かしがたい事実なのである。すなわち「人生」には二つの種類の人生があり、ひとつは「意味ある人生」であり、もうひとつはいわゆる「人生棒に振る」人生である。これは僕の六〇余年にわたる自己観察と人間観察から得た結論であり確信である。それでは両者―「意味ある人生」と「棒に振る人生」―の別れはどこにあるのか？それは「生きるということとはどういうことなのか」ということを、人生のどこかで一度は徹底的に考えてみたことがあるか否かにかかっているとぼくはみている。

人間誰しも、よほど浮かれて生きていない限り、つまり、一度は自分自身に立ち返ることがある限り、一回しかない人生を「棒に振りたくない」と思うはずである。そういう人に読むことを勧めたい一冊の本がある。それはルソーの書いた『エミール』という本である。これは人間と人間的生の目的とは何であり、いかにしたら自由で幸福な人生を送ることができるか、という事についてルソーが精魂込めて我々に書き残してくれたものである。



飯岡 秀夫 (いのおか・ひでお)

経済学部教授。

1939年東京に生まれる。1970年慶応義塾大学経済学研究科博士課程単位取得満期退学。

担当科目：『経済学史』（『経済学史Ⅰ』、『経済学史Ⅱ』）、『社会思想』（『近代社会思想』、『比較社会思想』）。研究テーマ：ロック、ルソー、スミス、マルクス、ウエーバー、ケインズらの学説研究。